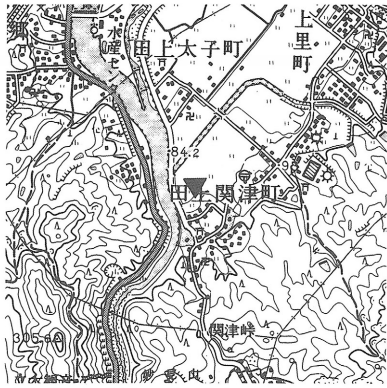


## 滋賀・関津遺跡

せきのつ

- 1 所在地 滋賀県大津市関津二丁目地先
- 2 調査期間 二〇〇四年(平16) 一月～二〇〇五年三月
- 3 発掘機関 滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会
- 4 調査担当者 吉田秀則
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 鎌倉時代～室町時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

関津遺跡は、琵琶湖から流れ出る瀬田川沿いの東側の平野部、田上地区の西南隅の水田地帯、大戸川との合流点の下流に位置する。



(京都東南部)

本遺跡では、二〇〇三年から県営圃場整備事業に伴う発掘調査を実施している。これまでに奈良時代の掘立柱建物と柵列などが検出され、多量の須恵器・土師器とともに緑釉陶器・墨書土器・円面硯・土馬などが出土しており、田上柚との関

係が注目されている。また、鎌倉時代から室町時代にかけての掘立柱建物・井戸・土坑・溝なども検出している。

今回紹介する木簡が出土した調査は、国道四三二号線の改良工事に伴うもので、鎌倉時代の土師器・瓦器の皿や椀、白磁や青磁の椀などの輸入陶磁などとともに、呪符木簡・犁・田下駄・下駄その他の加工痕の残る多数の木製品が出土した。出土した土層は、暗茶褐色の粘質土(砂が混じる)の遺物包含層で、葦の根なども含まれている。

### 8 木簡の釈文・内容

- (1) (梵字) 天罡 (符籙) (人面墨書) 急急如律令カ
- ・ [ ] (刻書)
- 307×59×7 051

上端は方頭で、下端は左右を斜めに削り先端を水平にカットしている。表面は、小刀などの加工痕が残る。表面には、墨書あるいは墨書痕が確認できるが、全体に著しい風化を受けている。裏面には、墨書はなく、直径1cmの円と、その中心に点が刻まれている。表面からみて左寄りの上下両端に釘孔が二個一対で穿たれていることから、何らかの転用材が使われたものと思われる。

(吉田秀則)

